

# 月刊 社会保険 11

2016 VOL.796

一般社団法人  
全国社会保険協会連合会

ネットで確認! ねんきんネット

個人型確定拠出年金(iDeCo)のご案内です

日本年金機構からのお知らせ

平成28年10月分(11月納付分)からの厚生年金保険料額表

公的年金制度の財政基盤及び最低保障機能の強化等のための国民年金法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律案の概要

協会けんぽからのお知らせ

平成28年10月からの制度改正について

協会けんぽ(医療分)の平成27年度決算を足元とした収支見通し(平成28年9月試算)について(概要)

新連載/自分らしく生きる社会とは 岡山 慶子・廣瀬 瑞穂

ネットで確認! ねんきんネット	4
個人型確定拠出年金(iDeCo)のご案内です	6
日本年金機構からのお知らせ 平成28年10月分(11月納付分)からの厚生年金保険料額表	7
公的年金制度の財政基盤及び最低保障機能の強化等のための国民年金法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律案の概要	8
協会けんぽからのお知らせ 平成28年10月からの制度改正について	8
協会けんぽ(医療分)の平成27年度決算を足元とした収支見通し(平成28年9月試算)について(概要)	10
人生とともにある社会保険 第16回 障害年金と遺族年金 監修/社会保険労務士法人森萩経営労務管理事務所	14
年金・健康保険委員活動報告 社会保険と地域経済~地方に活力を~ 株式会社トックス代表取締役 瀧沢 義家	16
世界の街かどで道ばたで 第154回 髪を染めて 私は別の女よ エッセイスト 藤川 鉄馬	18
書評 吉川 洋著『人口と日本経済 - 長寿、イノベーション、経済成長』	21
自分らしく生きる社会とは (第1回) 「序にかえて」 朝日エルグループ会長 岡山 慶子 「病気に自分らしさを妨げられることのない社会に(がん治療と就労の両立を支援する①)」 NPO法人キャンサーリボンス委員・事務局長 廣瀬 瑞穂	22
認知症にやさしい社会を考える~本人、家族、医療、地域につながるために 第7回 介護保険と医療行為~喀痰吸引をめぐる1通の投書から~ NPO法人ハート・リング運動専務理事 早田 雅美	24
機能的に食べることで病気を予防する ファンクショナルダイエット 第7回 ケトン体、短鎖脂肪酸と身体・認知機能 一般社団法人日本ファンクショナルダイエット協会理事長 白澤 卓二	26
人生100年時代を生きる② 第19回 ご存じですか、自分の血糖値 監修/学校法人聖路加国際大学名誉理事長・聖路加国際病院名誉院長 日野原 重明	28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30/年金保険編 32/介護保険編 34/労働保険編 36 特定社会保険労務士 鈴木 ひろみ	

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・平松尚樹、水森亜土、寒河江智果/題字・たけぞう/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)アイネット

表紙のことば——竹内敏信 「光の響」**「フィレンツェ」**

イタリア共和国 (Italian Republic)



フィレンツェはイタリアの中部にある都市。私も何度か足を運んだことがある。その中で私は建築物が魅力的な街だと思っている。歴史ある建築物、風情ある暖かい雰囲気こそが魅力なのだ。

写真は夕景。高台から撮影した。街を見渡すと建物の歴史を感じさせてくれる。その中でも私は橋に目を向けてみた。日本の橋とは形が異なり、橋自体も街の風景に馴染んでいる。日本は地震大国だからどちらかというと安全性を重視している。そのため街に馴染んでないことが多い。

太陽が下がり、じんわりと空と川を染める茜色。街のシルエットは美しい。映画で目にするような光景に心奪われるひとときであった。

© 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

## 社会保険と地域経済～地方に活力を～



株式会社トックス代表取締役  
滝沢 義家

●十日町市の紹介  
十日町市は、新潟県の南部に位置し、周囲は山に囲まれ、冬には2〜3mの積雪がある日本有数の豪雪地帯です。

市内を流れる日本一の大河信濃川と渋海川流域には水田が広がり、魚沼産コシヒカリの産地として名高く、里山に広がる棚田は日本の原風景を思い起こさせます。

十日町地域は、歴史的に着物・織物の日本有数の産地であり、「明石縮」は日本伝統工芸品の指定を受け、現在でもその伝統技術を受け継いでいます。西の京都・東の十日町といわれる友禅も盛んです。

また、市内の笹山遺跡から初めて発掘された縄文土器である火焔形土器は、新潟県にとっても初めて国宝に指定されました。

近年は、3年に1度の夏十日町を中心とした妻有地域で開催される「大地の芸術祭」を展開し、国内外から多数の観光客が当地を訪れ、「里山のアート」「自然と芸術の調和の美しさ」に感動しています。さらに冬は、日本の雪まつり発祥の地として毎年行われ、今後は冬の大地の芸術祭として、市内各地域で「火花と光のイルミネーション」を展開し、多数の観光客誘致に向けて積極的に取り組んでいます。

しかしながら、市合併当時6万5000人あった人口が、現在5万1000人となり、少子高齢化問題が当

市にとって今後一番の課題になるのではないのでしょうか。

### ●会社の紹介

当社は、昭和40年7月、十日町地域の基幹産業であった十日町織物製造に従事する従業員の福利厚生役割を担って、産業給食を主とした十日町織物工業協同組合給食センターとして設立されました。

その後、平成6年10月に株式会社トックスに社名変更し、現在では企業への給食業務だけでなく、多様なニーズに即応した個人宅配をはじめとして、学校給食、保育園給食、デイサービス等幅広く地域密着型企業として、地域の皆様に食事を提供しています。

当社の経営理念は、「社員の物心両面の幸福を願い、食を通して地域社会に貢献する」ことです。今後もこれまで以上に地域の皆様方に愛される会社を目指していきたいと思っています。

### ●社会保険委員として

現在新潟県には、8つの社会保険委員会があります。私は、そのうちのひとつ、六日町社会保険委員会十日町支部に所属し、支部長の立場で委員活動を行っています。

「社会保険委員の委嘱」を受けて9年が過ぎましたが、十日町支部の理事就任後1年で支部長に就任し4年目となりました。支部長就任後は「笑

きちんと發揮できるような働き方改革も企業がますます進める必要性があるのではないのでしょうか。「企業は人なり」とよくいわれますが、これからはますます低成長の時代に入ります。したがって地方ほど企業が人材を確保し育成するべきではないのでしょうか。

「視点が変われば判断も変わる」といわれますが、高い社会保障を望むのであれば、われわれは今までの高負担をしなければ、社会保障制度は成り立っていきません。権利を主張するのであれば、当然義務を履行しなければなりません。これからは国民一人ひとりが国民皆保険の意味をもう一度考え直して、自己中心のものの考え方から「利他の精神」に変わる時代が来たのではないのでしょうか。

社会保険の普及活動といっても、地方経済や地方の企業が疲弊するようでは円滑にいかないはず。今後はより一層社会保険制度が健全な形で運営されていくには、地方の活性化、地方の活力ある経済が必要ではないのでしょうか。この意味においても地方の繁栄が今後の社会保険にも大きな問題を投げかけてくるのではないのでしょうか。

それともう1点重要な問題点は、どうすれば今後いつまでも国民一人ひとりが、これだけ多様化した社会（食生活の変化、生活スタイルの変化）の中で、医療や介護に依存しない自立

顔の絶えない明るい人生」をテーマに支部研修会や役員交流会を行い、会員数の増加に努めています。特に、役員交流会においては、私の大好きな思想家安岡正篤先生の言葉ではありませんが、

「安い酒は飲むな、いい酒を飲み、よい仲間と人生を語り、友情を語り、世界を語り、限られた時間を有意義に過ごす」ことを私のモットーとして会を運営しています。

さらに社会保険委員会の組織の大きな魅力は、異業種交流が図れる場であるということです。自分の視野を大きく広げることができる、非常に魅力を感じる組織であると思います。

### ●社内活動として

企業の発展は、社員が健康で問題意識を持って、笑顔で明るい職場であることが非常に大切なことでもあり、必要不可欠ではないのでしょうか。

具体的事例を挙げますと、次のとおりです。

- 1 当社は、十日町地域において早々に70歳定年制を採用し、今後ますます年金受給年齢の上昇が予想されるため、従業員の収入の安定に向けて対応しました。また、70歳以降も本人の希望があれば、会社として継続雇用を努めることとして、従業員の働きやすい職場づくりを目指しています。
- 2 「心の相談室」も設置し、私に対応



株式会社トックス

した健康な生活（老後）を送ることができるとはならないのでしょうか。

それには、政府が国民に10年後、30年後の長期ビジョンを明確に提示し、それを実行していくことではないのでしょうか。社会保険や年金の安定は、国民生活の安定には欠かせないことです。したがって、現役のわれわれは、再度社会保障の安定のためにさまざまな角度から考え直すことが必要だと思えます。

次世代の若者のためにも……

今後の社会保険委員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、締めくくりとさせていただきます。

（新潟県社会保険委員会連合会理事 六日町社会保険委員会十日町支部支部長）

しています。あるとき女子従業員から同僚の様子がおかしいという相談があり対応しました。

夫のDV等でうつ病にかかっていたことが判明したため、精神科の医師と本人の了解を得て相談しながら、半年間休暇を取ってもらうことにしました。ただし、2週間に1度は出社し、私と30分くらい話をし、担当の医師と相談しながら様子を見ました。半年後からは、その従業員の回復状況と仕事内容を検討しながら、1日4時間から6時間そして8時間勤務へとシフトしました。お陰様で現在では通常の8時間勤務となり、それまでと変わりなく仕事に従事しています。

「うつ病」は、誰もがかかる病気（職場環境、対人関係等が原因？）にもかかわらず、簡単には説明できない精神的な辛さがあり、日々の心の状態が一定しない病気だと思えます。

これからは社員一人ひとりの日常生活に注意し、会社としては今まで以上に社員の健康管理やメンタルヘルスを重要視していかねばならないと思っています。

3 毎年秋頃になると全国的にインフルエンザが流行します。部署によっては調理業務に影響が出ないようにするため、予防接種を一部会社負担で行うよう努めています。

今後は、会社として社員全員の接種を考えています。

4 定期健康診断の結果、要2次検査と診断された従業員には、再度受診させています。その結果を報告してもらい、会社としての従業員の健康管理を行っています。

以上の4点を挙げましたが、これからますます少子高齢社会になることが現実です。会社としては地域経済の変化に対応できるように、新入社員の確保・人材育成、従業員の健康・労務管理には、万全な対策を講じて企業の発展のために努力していかねばならないと考えています。

### ●今後の問題点

現実問題として高齢化は地方ほど急激に進んでいます。日本全体の人口が減少する中、大都市に若年人口が集中する傾向には変化がありません。地方の出生率が向上しても、進学や就職を機に若者が流出すれば、地域社会・地域経済は疲弊して活力が失われます。地方で若者が就職し、結婚して子どもを持つようにするためには、われわれ経営者も雇用環境を改善することが地域社会にとっては急務であると思えます。

女性が家庭と仕事を両立させる「継続就業」を支援することも重要ですが、労働人口を補う女性やシニア層の活躍が進んできている中でより加速させるには、短時間勤務でも能力を